

くろう者・手話関係者文教警察委員会傍聴②>

3/11(火)、文教委員会二日目

昨日はほとんど聞こえなかったモニター室の音声も本日復活したので、議員の質疑は良く聞こえた。しかし、昨日聞こえなかったのは取り返しがつかず、非常に残念。専門業者が調べても機械の故障はなく、なぜあれほどの雑音が入ったのか全く原因がわからないようだ。

本日はろう者8名、健聴者2名。通訳者は4名。委員会室に入ったのは山本事務局長、小倉局員、池中理事。それ以外はモニター室での傍聴。

民主無所属クラブ（下田市・賀茂郡）鳥澤富雄 議員

「3/10 付けの朝日新聞朝刊『聾学校 改称しないで』の記事を読み非常に驚いた。そのなかで特別支援課の名倉慎一郎課長は「一般に『聾』という字は差別的なニュアンスがあり『聴覚障害』と言い換えが進んでいる」と載っている。特別支援教育課長は、昨日は言った覚えが無いと答えているが本当か？見識あるマスコミが根も葉もないことを取り上げることはないと思う。協会は手話文化がなくなることが心配している。12/20 で意見を求めるのは遅い。一方的に押し付けるのではなく話し合いの余地が必要。教育長にも尋ねたい」

名倉課長の答弁

「昨日の朝日の記事、『差別的ニュアンス』校名改正の理由であげていることについて。昨日私は『申し上げてない』と答弁した。私は言っていないと思ったが記者に確認したら、言っていた。私の使った言葉の意図が記者に違う捉え方をされ、直接関係しない文脈に入れられたことを新聞社に抗議した。」

遠藤教育長

「校名変更＝学校種の変更 静ろう PTA などのはろうの名前が残るようにしたい。ろう文化などを尊重し校名は愛称などで残るようにしたい」

公明党（静岡市駿河区）前林孝一良議員

「県教委は、強引な進め方。当事者の了解を取って上程をすべき。聴覚障害者の結束の固さ感じた。ユニバーサルデザインといいながら言いにくい名称にしたが、県教委には悪意はない。県教委、静聴協も共に子どものことを考えている。ひとつの文化を守っていくというのは私も教育長と同じ」

自民党（浜松市天竜区）中谷多加二議員

「学校名は思い入れがある。例として下田地域の校名の問題。質の違いはあるが、一抹の寂しさもある。その辺の配慮必要だったのでは？」

教育長が PTA など愛称として使えるように、というのはこちらの訴えと大きな隔りがある。ろう学校 PTA の名称は県教委が介入するものではない。それと同じレベルに扱われたことには大いに疑問が残る。

名前がなくなることが悲しいという感傷的なものではなく、「聾学校は子どもにとって分かりやすい名前であるべき」「社会でかわいそうだという意味に受け取られる特別支援は差別的。聞こえなくても立派にやっつけていける」と訴えているのだ。

終了後、山本事務局長や池中理事、鈴木礼子理事、小倉局員が SBS の取材を受けた。カメラが回っているので、みんな緊張気味？と思いきや、池中理事は「静岡が広島のように校名変更して、手話のできる教師がいなくなってしまうことが心配。」

「私たちは聞こえなくても家庭を持ち、仕事を持ち一人前にやっている」と張り切って取材を受けていた。

どの記者も「聞こえないことってわからなかったあ〜」との感想をもらしている。

「県教委は名前を変えても中身は変えないといっていますが？」の質問に小倉局員は「突然校名変更を言ってくるような県教委だから信じられない」ときっぱり。

鈴木理事も「聴覚特別支援という名称では無理やり聞こえる人になれと言われているようだ」と答えた。

明日、夕方 6 時 15 分～ のテレビタ刊で署名から今日までの様子が放送される。そして、午後はいよいよ委員会の採決が行われる。

委員会で決定すれば、19 日本会議での可決は避けられない模様。